

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200489		
法人名	有限会社 大東		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	〒859-3929 長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷2343-2		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年3月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217番地 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 22年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いや生き方を尊重しいきいきと張りのある暮らしが出来るよう自分で出来ることを見守りながら支援して、達成感を味わってもらい喜びを共有する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道の側にあるが静かな佇まいで、立ち上げの時から地域の方の応援がある。また、運営者は近くに住まれており、毎日ホームに来て、不自由な所がないが気軽に職員や入居者に声をかけ、管理、運営をされている。入居者も地域の方が多く、家族や知り合いから様々な差し入れがあり、交流も盛んに行われている。経営者と管理者は入居者を最優先にする介護のあり方を掲げられ、それに伴う業務は後回しでも良い。という考えがあり、職員も入居者の知識や今までの経験の中で勉強させてもらい喜びを共有し、日々の記録も時間を掛けない事業所独自の工夫をされており、ケアの為の時間を取るよう努めている。今後も入居者を大切に思われる姿勢を保ち続けられことに期待できるホームである。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの玄関入口の見やすい所に掲示してスタッフ全員で理念に基づくサービスを実践している。	住み慣れた地域の中で、利用者の思い、生き方を尊重し、笑顔のある暮らしを支援すると分かりやすい理念を掲げ、見やすい玄関の入り口に掲示し、職員と共に自宅の延長と考え、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるように支援に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者が町内在住で地域との関わりも深く、日常的な交流が自然な形である。	町内会に開設当初から加入しており、回覧板もホームへ来ている。町内清掃には経営者が参加しており、散歩時も声をかけていただき、地域に溶け込んだ存在となっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との交流の中で認知症の人への理解を求める啓発を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	十分な状況説明を行い貴重な意見をサービス向上につなげている。	運営推進会議は夜の開催だった為、役場職員の参加が難しく数回しか出来なかった。しかし、民生委員の方から認知症を理解された意見などがある。今年度から地域包括支援センターと役場の介護保険担当職員のどちらか出ていただけるようお願いしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の事業者連絡会に出席し、協力関係を密にしている。	入居者状況の情報交換や、地域のグループホーム情報は把握されているため、事業者連絡会議に来られる時話をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全スタッフが法令に従って身体拘束をしないケアを行っている。	職員全員が「身体拘束をしないケア」を実践している。家族との話し合いで施錠しない事の理解も得ている。又、身体拘束廃止のためには、家族に合わせる事が一番ではないかと思い、努力されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で、虐待防止について勉強会をしたり、職員がセミナーに参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を理解し契約時文書で説明し活用を促している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等、重要な場面では十分な説明と合意の上締結している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に等に家族に要望等聞いたり、ご意見箱の活用を促しており、意見はケアに反映させている。	家族会はないが、色々な行事の時や、面会に来られた際ご家族から話を伺ったりしている。感想等はあるが、意見としては言われないのが現状であるが、日ごろお便りを出し入居者の生活されている写真を掲載しており、とても喜ばれている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議においてスタッフの意見や提案を聞き運営に反映させている。	月一回のスタッフ会議とや、日常的に職員の意見や提案が言えるような関係を作っている。又、日々の細かいところのケアプランなど職員同士も気づきがあればお互いに話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望勤務帯を重視し働きやすい環境である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者と連携し一人ひとりの実力に見合った研修への参加を促している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間で勉強会を行うことはあるが相互訪問等の活動積極的にできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居者の方に合わせて、要望や不安はないか、聞くように心掛けている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居者本人だけでなく家族の方にも安心して頂けるよう、説明不足が無い様気をつけ、相談等しっかりと受け入れている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の要望と本人の状態を照らし合わせ、適切な支援を見極め対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理や後かたづけなど一緒に行う事で、関係を築いている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居者の暮らしぶり、日常の様子などを伝え「おたより」の発行などの支援を行っている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の知り合いの方が来られても気軽に会話できるようにしている。</p>	<p>近隣の入居者が多いので、近所の方がいつも野菜や旅行のお土産を持ってきてくださる。お墓も近くにあるのでお参りに行っている。本人が行きたいと希望されたときは、可能な限り対応している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>フロアソファなどで寛ぐ場を設けたり、レクレーションなどを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に相談があった場合にはケアマネジャーと連絡を取り対応に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重している。スタッフ会議の中でもケアプランを基に勉強している。	一人ひとりの思いを尊重し、ゆっくりと会話等出来るよう管理者、職員共に記録の簡素化を提案し実行している。入居者と寄り添う時間を増やす事で本人本位のケアになるように努められている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションの中で、多くの情報を得られるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしで観察し、記録に残している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議の中でケアプランについては見直し意見交換している。家族にも同意を得ている。	利用者ごとの担当職員が介護計画を作成している。生活記録は必要に応じて見直しをされている。全職員で情報の共有を図り、家族の意見も取り入れた介護計画作成に努められている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践は個別記録に記入し、情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム入所だけに捉われないニーズに合わせショートステイも利用可能としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に行かれる時は同行して、安全に楽しめるように気を付けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じた主治医と連携し受診や往診の対応を看護師と共に適切に支援している。	本人、ご家族の要望があるときは、遠くてもかかりつけ医に適切な医療が受けられる様支援している。初めての受診の場合は、家族に同伴してもらっている。近くのかかりつけ医の場合往診もお願いすることがある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護員が連携し確実な情報交換を行い適切な受診等看護体制が整っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、病院関係者や家族との情報交換を密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方につき本人家族と話し合い方針を共有している。	入居時からご家族には説明をしている。重度化し医療処置が必要になった時は、本人、家族の意向を尊重し対応している。職員には、ターミナルケアに関する研修などもされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルを作成し定期的に訓練を行い緊急時にそなえている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等、非常時に利用者が避難できるように地域との協力体制が出来ている。	代表者が消防団の役員をしていたので、消防署、分団との連携又、地域との協力体制ができています。入居者の避難場所も、近くにある公民館に誘導する手順、休みの職員の自宅から何分かかかるかも把握している。	災害に対する備品は揃えているので、今後は食料品の準備や、入居者の名札に、個人の最小限の情報を記入し準備する等の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重し誇りやプライバシーを守る言葉かけや対応をしている。	いつも言葉かけに気をつけているが、気が付かない場合もあり、慌しい時に馴れ馴れしい言葉になる時は、管理者や職員が注意し合っている。また、トイレ誘導時はさりげなく小声で促すなど配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を重視し自己決定を尊重している。表現が乏しい方へは気持を察して支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に入居者優先で介護を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとり個性を大切に、髪型、服装などに気をつけ、支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に、家事に参加してもらいながら、食事作りを行っている。	栄養士に栄養のバランス等を見てもらい、メニューは職員が決めている。調査当日は入居者がエプロンを掛け、職員と楽しみながら、下ごしらえや包丁を使い、りんご等の皮むきをしており、褒めると幾つでも剥いてくださりお断りするという微笑ましい様子もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算で栄養バランスを考え水分、食事量はそれぞれチェック表で確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は毎回洗面所へ誘導し一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向けたトイレ介助を行っており一人で出来る方、一部介助、全介助の方の対応に応じている。	入居者全員布パンツと、尿とりパットで排泄の支援に取り組んでいる。トイレ誘導が必要な方は、排泄リズムを把握し、失敗無くトイレで排泄できるよう支援している。食前、食後、夕方四時くらいに声かけをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしないよう水分消化の良い食事の提供、又適度な運動を行い予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるが本人の希望や体調を見て楽しく入浴出来るよう支援している。	決まった曜日に週3回入浴して頂いている。本人の要望があれば、いつでも入浴できるように対応しながら長風呂の方や一番風呂の好き嫌いなどもあるので、個別に対応して気持ちよい入浴の支援に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握して昼寝など希望に応じて支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に服薬状況を確認し症状の変化に対応出来るようチェック表を作成している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の情報を知り、入居者の出来ることを支援している。(食事の準備、編み物、塗り絵)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日等、戸外に誘い気分転換を図る等支援している。	買物、ドライブ、温泉など、いつでも出かけている。今回も選挙があった為、入居者と一緒に選挙にでかけ、本人の希望や意向に沿った支援が出来るように努めている。また、国道が側に通っているので、九州マラソンも応援に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される利用者へは高額にならない程度所持してもらっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話や手紙の支援を行っている。携帯を所持している方へも支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿器や空気清浄機を取り付けて、不快なく、生活出来るよう心掛けている。	食堂とホールを別に作り、天上が高く天窓からやわらかな光が差し込み広々とした、落ちついた空間がある。夜には梁に明かりを巻いているので時々点けて喜んでいただいている。ご自分の部屋やホール、いたるところには、入居者の方が二～三年がかりで作った作品があり飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーに全員がくつろげるソファがあり、観葉植物を仕切りにして家族の面会時等別の空間がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の希望に添って馴染みのものを配置し個性的にしつらえてある。	居室は自宅のように押入れ収納を取っているので、開けてみるとお布団や夏物、冬物と衣替え出来る様にされている。家具や装飾品なども使い慣れたものを持参され、自宅と変わりなく居心地よく過ごされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の場所が直ぐ解る様に表示し、手摺などを使って移動が出来る。又安全なバリアフリーとなっている。		